宮城県沖合底びき網地域漁業復興プロジェクトⅡ　　宮城県石巻市

事業実施者 ： 宮城県沖合底びき網漁業協同組合　　使用船舶名： 第32竜丸・第78竜丸・第58漁栄丸
第81龍神丸・第86龍神丸・第21大林丸
第31大林丸・第58幸勝丸・第83栄久丸

支 援 期 間 ： 平成28年4月1日～平成31年3月31日　　（沖合底びき網漁業）

（取組の内容）

●集団操業	9隻を3グループに分け集団操業（代表船設置）、漁場の使い分けを行う。
●操業日数の短縮	操業日数を第1期復興計画 200 日（震災前 230 日）から 180 日に短縮
●需要に応じた供給体制の構築	仲買人等流通関係者と定期的に協議 1航海当たりの水揚上限数量を設定（タラ・ホラアナゴ・スルメイカ等）
●高鮮度販売・付加価値向上	スルメイカの高鮮度販売の取組、キチジ・ホラアナゴの高付加価値化

（事業の成果）

●水深 200～300m帯と 700m以浅の漁場をローテーション操業し、資源を効率的に利用した。

●操業日数は第1期復興計画 182 日を下回る 178 日（復興計画Ⅱ 180 日）に短縮された。
燃油消費量は第1期復興計画 639KL/隻/年から 626KL/隻/年（復興計画Ⅱ 670KL/隻/年）まで削減された。

●マダラ、スルメイカ、ホラアナゴのスカイタンク(大型プラスチック容器　容量1t　)水揚げ、スルメイカの魚艙への積載量の制限（2 トン→1.5 トン）による高鮮度販売を実施した。その結果、魚類とイカ類を併せた全漁獲物の平均販売単価は第1期復興計画 153 円/kg（震災前 120 円/kg）から 235 円/kgまで改善された。